

社会福祉法人岳瑛 定 款

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

第二種社会福祉事業

- (イ) 保育所の経営
- (ロ) 一時預かり事業の経営
- (ハ) 幼保連携型認定こども園の経営

(名 称)

第2条 この法人は、社会福祉法人岳瑛という。

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を広島県呉市中央六丁目11番1号に置く。

第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会の運営については定款施行細則において定める。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議委員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。
- 3 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。評議員は再任されることができる。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員の報酬については、各年度の総額が30万円を超えない範囲で、支給することができる。

- 2 評議員にはその職務を行うために要する費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、役員等報酬規程に定める。

第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準

- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして、法令又はこの定款で定められた事項

（開催）

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月までに1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

（決議）

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 前項の場合において、一堂に会するのと同等の相互に十分な議論を行うことができる方法であれば、テレビ会議や電話会議での開催及び参加は認め、出席者とみなす。

- 4 評議員会は、あらかじめ招集通知で定められた議題以外の事項を決議することはできない。

- 5 第1項及び第2項の規定にかかわらず、当該提案につき特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなす。

- 6 前項において全てについての提案を可決する旨の評議員会の決議があった場合には、当該定時評議員会が終結したものとみなす。

（議事録）

第14条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

第4章 役員及び職員

（役員の数）

第15条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名
- (2) 監事 2名
- 2 理事のうち1名を、理事長とする。
- 3 役員を選任に当たっては、各役員について、3親等以内の親族その他特殊の関係がある者が、理事のうち3名を超えて含まれてはならず、監事のうちこれらの者が含まれてはならない。
- 4 理事長以外の理事のうち、1名を業務執行理事とすることができる。

（役員を選任）

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

（理事の職務及び権限）

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

- 3 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に4か月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。
- 3 任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された評議員の任期は、退任した理事又は監事の任期の満了する時までとすることができる。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事又は監事の報酬については、評議員会において定める報酬等の基準に従って支給することができる。

- 2 理事又は監事にはその職務を行うために要する費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、役員等報酬規程に定める。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長（以下「施設長」という。）は、理事会において、選任及び解任する。
- 3 施設長以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第23条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第24条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第25条 理事会は、理事長がこれを招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
- 3 理事長は、理事会を開催するときは、原則として招集日の7日前までに理事及び監事全員に通知するものとする。
- 4 通知の方法は問わない。なお理事及び監事全員の同意があれば、招集の手続を省略することもできる。

(決議)

第26条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。可否同数のときは、議長の決するところによる。

- 2 前項の場合において、一堂に会するのと同等の相互に十分な議論を行うことができる方法

であれば、テレビ会議や電話会議での開催及び参加は認め、出席者とみなす。

- 3 理事の提案につき、特別の利害関係を有する理事を除く理事の全員があらかじめ書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、監事が当該提案について異議を述べた時を除き、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。
- 4 前項において全てについての提案を可決する旨の理事会の決議があった場合には、当該理事会が終了したものとみなす。
- 5 理事又は監事が理事及び監事の全員に対して報告すべき事項を通知したときは、理事会の決議の省略と同様に、当該事項の理事会への報告を省略することができる。ただし、理事長及び業務執行理事の理事会への報告は省略することができない。

(議事録)

第27条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 出席した理事長及び監事はこれに記名押印する。
- 3 前項にかかわらず、出席した理事及び監事が、前項の議事録に記名押印することとしても差し支えない。

第6章 資産及び会計

(資産の区分)

第28条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の2種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

- (1) 広島県呉市中央六丁目 11 番地 1 所在の木造合金メッキ鋼板ぶき 2階建 鈴らん保育園園舎 1 棟 (1階 263.87 平方メートル, 2階 234.73 平方メートル)
- (2) 広島県呉市東中央一丁目 5 番地 17, 5 番地 19, 5 番地 18, 5 番地 20 所在の鉄筋コンクリート造陸屋根三階建銀の鈴保育園園舎 1 棟 [583.82 平方メートルのうち 355.91 平方メートル (1階 144.30 平方メートル, 2階 144.30 平方メートル, 3階 67.31 平方メートル)]
- (3) 広島県呉市東中央一丁目 5 番地 17 所在の銀の鈴こども園 敷地 (101.18 平方メートル)
- (4) 広島県呉市東中央一丁目 5 番地 19 所在の銀の鈴こども園 敷地 (69.71 平方メートル)

3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第29条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、呉市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、呉市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資(独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担保に限る。)

(資産の管理)

第30条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。
- 3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

(事業計画及び予算)

第31条 この法人の事業計画書及び収支予算書は、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。

(事業報告及び決算)

第32条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後3か月以内に、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を経てから、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2 第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

（会計年度）

第33条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

（会計処理の基準）

第34条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

（臨機の措置）

第35条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第7章 解散

（解 散）

第36条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第37条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第8章 定款の変更

（定款の変更）

第38条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の議決を得て、呉市長の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を呉市長に届け出なければならない。

第9章 公告の方法その他

（公告の方法）

第39条 この法人の公告は、社会福祉法人岳瑛の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

（施行細則）

第40条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の理事又は監事は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、理事又は監事の選任を行うものとする。

理事長	平 田 シ ゲ コ
理 事	鈴 木 敦 子
理 事	久 田 見 茂
理 事	永 野 昇
理 事	榎 坪 定 堆

理 事	吉 川 勘 一
監 事	吉 崎 勝 彦
監 事	平 岡 孝 男

附則（平成3年4月1日 広島県知事認可）

この定款の変更は、広島県知事の変更認可があった日から施行する。

附則（平成6年12月16日 広島県知事認可）

この定款の変更は、広島県知事の変更認可があった日から施行する。

附則（平成10年11月17日 広島県知事認可）

この定款の変更は、広島県知事の変更認可があった日から施行する。

附則（平成14年4月24日 広島県知事認可）

この定款の変更は、広島県知事の変更認可があった日から施行する。

附則（平成23年8月1日 呉市長認可）

この定款の変更は、呉市長の変更認可があった日から施行する。

附則（平成27年11月25日 呉市長認可）

この定款の変更は、呉市長の変更認可があった日から施行する。

附則（平成29年1月10日 呉市長認可 呉福福指令第117号）

第1条 この定款は、平成29年4月1日から施行する。

第2条 第5条で定める評議員の人数は、平成29年4月1日から平成32年3月31日までの間は「4名以上」とする。

附則（平成29年6月27日 呉市長認可 呉福福指令第86号）

この定款の変更は、呉市長の変更認可があった日から施行する。